

製品名: GPR98 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11711**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	693kDa

抗原情報

遺伝子名	GPR98
別名	KIAA0686 KIAA1943 MASS1 VLGR1
遺伝子 ID	84059.0
SwissProt ID	Q8WXG9
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

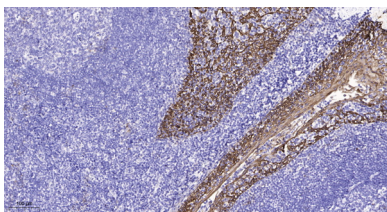
背景

この遺伝子は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は 7 回膜貫通型の受容体ドメインを持ち、カルシウムと結合し、中枢神経系で発現します。この遺伝子の変異は、アッシャー症候群 2 型およ

び家族性熱性けいれんと関連しています。複数の選択的スプライシング転写産物が報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、
発達段階: アイソフォーム 1 は、検査したほとんどの組織において、発現の絶対レベルに大きなばらつきがあるにもかかわらず、ア
イソフォーム 2 の 4 倍の量で発現しています。アイソフォーム 3 は、検査したほとんどの組織において、アイソフォーム 1 の約 1.5 倍
のレベルで発現しています。胎児精巣では、アイソフォーム 3 がほぼ独占的に発現しています。疾患: GPR98 の欠陥は、アッシャー
症候群 2C 型 (USH2C) [MIM:605472] の原因です。USH は、網膜色素変性症と感音難聴の関連を特徴とする遺伝的に不均一な疾患
です。発症年齢と聴覚および前庭機能の違いにより、アッシャー症候群 1 型 (USH1)、アッシャー症候群 2 型 (USH2)、およびアッ
シャー症候群 3 型 (USH3) が区別されます。USH2 は、前庭反応は正常ですが、先天性の軽度難聴を特徴とします。疾患: GPR98 の欠
陥は、家族性熱性けいれん 4 型 (FEB4) [MIM:604352] の原因となる可能性があります。これは家族性熱性けいれん 4 としても知られ
ています。熱性けいれんは、頭蓋内感染の証拠や明確な病的または外傷的原因がない小児期の発熱エピソードに関連するけいれん
です。これは一般的な疾患で、生後 3 か月から 5 歳の子供の 2 ~ 5 % が罹患しています。大部分は単純熱性けいれん (一般的には、全
身発作から始まり、30 分未満の単発発作と定義されます) です。複雑熱性けいれんは、局所発作から始まり、30 分以上続き、24 時
間以内に複数の発作が起こることが特徴です。単純熱性けいれん後にてんかんを発症する可能性は低いです。複雑熱性けいれんは、
てんかんの発症率が中程度に増加することと関連しています。機能: 中枢神経系の発達に重要な役割を果たす可能性のある受容体。
その他: これまでのところ、最大の細胞表面タンパク質です。類似性: G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。LN-TM7
サブファミリー。類似性: 1 つの GPS ドメインを含む。類似性: 35 個の Calx-beta ドメインを含む。類似性: 6 つの EAR リピートを含
む。サブユニット: WHRN と相互作用する。組織特異性: 成体組織で低レベルで発現する。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。